



2011.4.1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



ポンプアップ 放流中

南入曽 不老荘前

東日本大震災により被災された皆様に 心よりお見舞い申し上げます。

更に原発事故が加わって、今後どうなるか、予測のつかない事態に困惑するばかりです。

津波災害を起こすのも水であるが、放射線を抑えるのも水で、自然の力によってしか抑えることの出来ない科学の力の限界を見た気がする。

今回の災害で不老川にも影響があった。

水質浄化のために行われていた環流水（川越市の滝ノ下水処理水を狭山市までポンプアップして放流）を1日8時間だけ放流する事と、川水の浄化施設3箇所を計画停電が解消されるまで休止する、と埼玉県から連絡があった事である。環流水の電気料は年間6千万円とも言われており、電気使用量も1/3に抑えられることになるが、全面停止にすべきと思う。節分の日に川水がなくなることが不老川（としとらず川）の由来でもあるので、本来の川の姿に戻すことが自然であり、私たちが汚した水はきれいにしてから川に流すことが、川の生き物にとっても、私たちにとっても当然のことといえる。（3月26日 相馬 記）



キラソウ

別名 ジゴクノカマノフタ
 春、足下に目を凝らすと、濃紫の花を開き地面に貼り付いている小さな野草が見つかる。イシャゴロシとも呼ばれ、著しい薬効を持つという。

生き物の側から不老川を考える

トークイベント「不老川と生き物」 2月26日 入曽公民館にて

昨年の魚を話題にしたトークイベントに続き、今回は、不老川は生き物にとってどんな現状なのかという観点で話し合いの場を持った。

不老川で、鳥、植物、魚を観察してきた人の報告の後フリートークに入った。埼玉県川越県土事務所や狭山市の職員にも参加して頂き、意義深いものとなった。

10年間の野鳥観察から 矢内昭夫さん

(日本野鳥の会会員)

「西武線下流からとしとらず公園まで、10年間カルガモを中心に野鳥を観察してきた。(折れ線グラフの説明)。カルガモは1年中いる鳥だが、観察始めた頃から減ってきて、現在は半分以下である。H20年鉄橋工事などで著しく減った。ここで繁殖しているのだから、繁殖期には刺激しない配慮が必要だ。野鳥は10年間で45種見つかった。」そのうち20羽ほどを画像をもとに、特徴や生態の説明がされた。「カワウは放流魚を捕っているようだ。ハシビロガモ、イカルチドリ、イソシギなど珍しい鳥も観察したことがある。ジョウビタキは冬、川の近くでよく見かける。最近カワセミが毎回のように見られるようになった。小魚がいるということである。」



植物と護岸工事 田上(不老川市民の会)

5年前から始めた川歩きクラブの簡単な紹介の後、不老川を歩いて感じた問題点を話した。七曲り上流の拡幅工事で切り立ったフトンカゴ護岸になり土手の自然が消滅したこと、97年山王橋上流の工事で、アズマイチゲ(絶滅危惧種)の一群れが消滅したこと、フトンカゴ工事とキツネノカミソリ移転、埋め戻しの経過、その後の減少の様子を提示。「ここ1,2年帰化植物が繁茂し普通の雑草ですら見えなくなりつつある。原因は土、草を定着させることなく針金むき出しのままの乾燥地出現させている一連のフトンカゴ工事のせいではないか。川の水が綺麗になった反面、土手の植物は確実に貧しくなってきた。」



気づかなかった我々自身も問題だと反省している。」その他、草刈の時期と刈る範囲、川辺の木の大切さに言及した。

魚と水質、不老川全体像 相馬和彦

(不老川市民の会)

不老川説明(流域マップ、成り立ち、名前の由来)の後、流域の下水道普及と水質の関係を説明した。日本一汚い川といわれた時代もあったが、オイカワも棲める水質になった。支流の林川の上流にはホトケドジョウ(絶滅危惧種)がいるが、平成8年には入間市の大森調節池でメダカ、ドジョウ、フナ、モツゴが確認されたが、放流魚の可能性もあると話した。河川工事で落差工を取り除いたので平成19年には久保川合流点で平成22年には狭山市でも初めてアユが確認された。水質が良くなったことや川の構造が変わったことで新河岸川や東京湾とのつながりも出来つつある。現在行われている河川工事の状況や清流ルネッサンス計画や外来種生物法についても説明した。

フリートーク(問題別に要約)

鳥

Q:カモのヒナは洪水の時、どうなるのか?

矢内:流される。沢山産んでいるがヒナは1,2割しか生き残れない。幼鳥は虫をたべるが、成鳥は草やコケを食べる。

Q:他の鳥も減少しているのか?

矢内:鳥は減少傾向だが観察者が増えている。関心や知識が高まってきているようだ。ツグミはこのシーズン非常に増えている。シベリヤから渡って来るが昨夏の猛暑の影響だろう。

鴨の問題が出された。

矢内:5月の大事な繁殖期に、クリーン作戦を行うと巣作りをやめてしまうおそれがある。市などに時期変更を申し入れたが受けてもらえなかった。入間川は3月に変更してもらった。

市職員:クリーン作戦は恒例の行事になっている。

Q:クリーン作戦の時期をずらすことを掛け合ってもらえないだろうか?

市職員:今年は日程が決定されているので。

Q:鳥のためには川辺に木は大切だろうか?

矢内:木は必要。実の付く木があれば尚いい。

Q:スズメが減っているといわれているが。

矢内 案外減ってはいない。逆にカラス、ムクドリなど増えている。生物多様性の観点では問題だと思う。

護岸

田口：護岸の乾燥化の話が出たが、街全体が緑が減り乾燥化している。環境を大事にする意識がまだ少ないと言うことだ。意識をたかめていく必要がある。

県土：護岸を固めることは大方の近隣の要望である。この辺は用地買収が難しい場所で緩斜面は作れず、費用対効果を考えると急勾配で出来るフトンカゴが良い。護岸も時代の技術が反映する。今、石積み職人は少ない。



田上：フトンカゴは多自然型として期待されたが、流れが早く急斜面の所では相応しくない。なにより、覆土して草を定着させないのが問題。

相馬：護岸の植生を守るために、工事後、元あった土を戻すようにして頂きたい。

県土：草刈の問題は情報を出し合ってよい方向でやっていこう。地元の人たちが自分たちで刈っていく方法もある。

放流、餌やり

矢内：「きれいにする会」が魚を放流をしているが、生態系を崩すおそれがあり問題だ。放流魚のチェックはしているのか？

市職員：放流の種類だけは報告受けている。「放流に熱心な人がいるので」といわれる。しかし小学生が「放流していいの？」と問いかけている。

相馬：放流した後の調査が必要だ。

カモへの餌やりの問題も出た。カモや川への悪影響があるが、楽しみにしている人がいるのをどうするか。主な公園は殆ど立て札で知らせ、餌やり禁止となっているなど意見が出た。

県土：問題だと思うが、まずは住民同士で注意し合っ欲しい。

治水と環境

Q：川は危ないものだ、川のほとりに住むのは洪水覚悟だという考え方があるが。

相馬：落合川のほとりに住んでいて、『目の前のよい川の保全のためには洪水も覚悟だ』と言っている人もおられる。

県土：河岸の人の大多数は財産守りたい。行政の仕事は人命と財産保護が第一である。

田上：護岸主義でなく、川が溢れても災害にしない地域作りを目指す提言が国交省から出ているようだが。

不老川 昨日・今日・明日

ワーストワンの頃の不老川の様子は？との県土からの問い、「臭くて近づかない。堀兼の落差工から泡が飛んできた」。「ヘドロの匂いで春を知る。近隣を調べて、愛されていない川だと知った」など話が続いた。また子どもの頃、川越の不老川の氾濫に怯えた経験も出された。

県土：高度成長期の頃は、降った雨は早く海に出せという考え方で川は直線化された。今は治水と環境、両立の時代だ。

司会：地域で環境の議論が出来るようになった。魚類調査などで地域の人に川にもっと顔を向けてもらおう。

(田上)

A 「山王塚の森を守る会」発足

5年間の埼玉県の事業「里の山守活動」に参加して山王塚市民緑地を管理してきましたが、H 23年度から「山王塚の森を守る会」を立ち上げ、地域の人たちと共に山王塚を管理することになりました。会の中でどんな森にしていくのかを、よく話し合っ行ってきたいと思ひます。

今、森は間伐が行われ、実を付けるイヌザクラや エノキの大木も伐られてし

まいました。ただ、間伐によってかなり陽が射し込むようになりますので、今まで埋もれていた草花が姿を見せてくれるかもしれせん。

これからも、小さな木々が大切にされ、小鳥のさえずりを聞きながら散策を楽しめる森を目指して管理をしていきます。

皆様ご参加下さい。

(村手)

山王塚「しいたけ駒打ち体験教室」を通じて思うこと

3月27日(日)山王塚市民緑地で「しいたけ駒打ち体験教室」を行いました。前日までの強い風は治まったものの、まだ寒さの残る中、林は50名以上の親子連れでにぎわいました。林内で間伐されたコナラを原木に、皆でシイタケ菌の種駒を打ち込んでいきました。このほだ木からしいたけが生えるのは来年の秋以降です。どの人も、今から収穫できる日が待ち遠しい様子でした。

当日は発電機のトラブルがあったため、少し時間をとって林の中を自由に散策してもらったのですが、大きなツルウメモドキの木は、やはり



子どもたちに大人気でした。太いツルを揺すったり登ったりするわが子に、微笑む保護者の姿も見られました。他にも多くの人々が林を楽しんでくれたような気がします。

このイベントは、おとしに続き2回目ですが、前回とは違う点がいくつかありました。まず一つは、この冬に間伐作業が行われたため林の木がずいぶん少なくなったことです。見通し

がよくなり、さっぱりしました。当会が5年間この林を管理してきた際に理想としてきたものではありません。それが良いのか悪いのか、我々の中でも意見が分かれる所でしょう。

他の相違点、それは隣接する山王小学校の校長先生とおやじの会の方々にご協力を頂いたことです。我々はこれまでもずっと、子どもたちにこの林の良さを知って貰いたいと願っていましたが、なかなかそれを発信できずにおりました。今回、多くの児童と保護者が参加して下さい、環境学習をより広めることが出来てうれしく思います。地域とのつながり・人とのつながりは、これからも大切にしていかなければなりません。

これからの山王塚市民緑地は、いろいろな意見を組み入れて“理想”の林になっていくことでしょう。このイベントをきっかけに、一人でも多くの方が「理想の林とは何か」と感じ始めてくれることを願います。(田端)



ほだ木に
種駒を打ち込む

第5回 いい川づくりシンポジウムで話されたこと

(国交省 「中小河川に関する河道計画の技術基準」 通達)

2月19日に発明会館で話された表記のシンポジウムは、昨年8月に国交省の通達「中小河川に関する河道計画の技術基準」の普及を目的としたものであった。人間を含め生き物は水なしでは生きていけない。それにも拘わらず、人間は目先の利便に目を奪われ、水の運び手である川を無残な姿に作りかえて、逆に人間の健康を脅かす存在にしてしまった。このことから、川の作る自然の重要さが再認識されるようになり、現在の多自然川づくりの努力に繋がってきた。しかし、人口の増大は多くの人を川筋に張り付け、川に対する治水上の安全は今まで以上に求められるようになってきた。この現象を踏まえつつ、一方で十数年嘗々として続けてきた川とその

周辺の自然環境保全の努力を集約しつつ、今後の取り組みの方向を明確にしたのが今回通達された技術基準である。例えば、「川は川が自由に作る」という原則に基づき、河岸を護岸部と河岸部及び水際部に分け、それぞれの役割とあり方を明示したこと、また、河畔林は護岸工事に優先して考える対象であるという指摘等々、今までにない指摘が各所に盛り込まれている。

詳細は国交省のHPや当会のHPにアップされた資料、並びに島谷幸弘著「中小河川の技術基準 解題 多自然川づくりのすすめ(権歌書房刊)」を参照していただき、皆さん自身がこれらのことを確認していただくことをお勧めする。(小黒 記)

湧水いっぱいの落合川を見学

東久留米・蛍を呼び戻す会の方が私たちを案内

1月26日、当会で推進中の不老川のマスタープラン検討に関連して、東久留米にある黒目川の支流、落合川を見学した。東久留米・蛍を呼び戻す会の荒井さん、浅井さん、三田村さんの3名がお忙しいにもかかわらず、東久留米の駅を出発点に、私



見学参加者の記念撮影

親近感のある川の構造

源流は、住宅地に挟まれた何の変哲もない側溝のような感じであった。25年ほど前はこの辺は竹やぶで、かなりの湧水があったそうだ。不老川とよく似た源流のようだなと思いつつ歩を進めていくと、いきなりきれいな澄んだ水が流れ、さらに川下に進むとあちこちから湧水が入っている。水量が増え、源流から300mほどしか歩いていないのに、弁天橋付近では川幅が20m近くあることに気付いた。川幅は広いが岸から川底までは低く抑えられ、非常に親近感のある川の構造だなと感じた。

周りの自然を大切にしている湧水の多い川

川づくりについては「川が川を作る。川の流れの意思に任せる」との考えが基本にあるそうだ。全体として、周りの自然を大事にしている。かつて蛇行した川をストレートに回収する工事でも、旧河川はそのまま残され、そこは素晴らしい癒しの空間となっている。湧水がいたる所から流れ込み、清流特有のクレソンやミクリが育ち、水鳥たちも呑気に泳いでいる。



いこいの広場と水鳥たち

解放感と自然があふれる「いこいの広場」

中流付近には、市民と行政との話し合いによって完成した「いこいの広場」がある。そこは既存の護岸を取り壊し、広い水辺と広い川幅を確保した自然いっぱいのオープンスペースである。その中央付近に今回案内役を買って出してくれた荒井さん宅があり、そこでお茶などをごちそうになりながら、落合川の開発の経緯などをうかがった。

東京と思えない静かで自然豊かな南沢水辺公園

西武池袋線から1kmほど手前にある南沢水辺公園は、落合川から付近一帯に木々が生い茂り、コナラ、クヌギ、ほか、常緑樹を含めると多くの樹種が育つ静かな森である。その森の中を沢が流れ、落合川と南沢湧水群は東京都で唯一、環境省選定の「平成の名水百選」に選ばれている。

終わりに

落合川は、全長3.6kmの短い川であるが、とにかく水辺に簡単に降りられ、水に親しめる、きれいな湧水の多い素晴らしい川である。親水性のある構造は不老川のマスタープランづくりにも大いに参考になる。



清水の流れる南沢水辺公園内

小川泰男

22年度 市民の会の活動報告

山王小の学習支援から、山王小、山王中の協力を得て、初めて地域の人たちと魚類調査をすることが出来た。川歩きなど継続的な活動で出会いがあり「トークイベント不老川と生き物」に繋がった。地域に活動が広がったように思える。

- 源流を訪ねる川歩き 4月
- としとらず公園で魚類調査 7月
(10月は雨で中止)
- 第10回大森の池まつり 8月
- 川歩きクラブ 鳥の観察会 12月
- 山王塚 名札付け6月、椎茸駒うち3月
山王小環境学習支援7月
- トークイベント2「不老川と生き物」2月
- 水質調査 6月
- マスタープラン作成作業 落合川見学1月
- 会報「川のささやき」年4回発行
- ホームページの運営
- 川越 きらりボードの活用
河畔林の管理(石橋付近)
- としとらず公園検討委員会参加

西武新宿線橋梁架け替え工事完了

不老川床上浸水緊急事業として行われていた表記工事が完成した。下り線の橋が狭く、上流で溢れることが多かったので、拡げる工事が行われた。



しかし、橋だけを拡げると下流で溢れる所があるので、上記写真のように、フトン籠で川幅を狭くしてある。今までは1分間に1380tしか流れなかったが、一旦4200tにしてから2700t流れるようにしたもので、下流からの河川工事が進んできたら、フトン籠を取り除いて4200tにすると聞いている。それでも今までよりも約2倍多く流れるようになったので、その分上流が溢れることは少なくなると期待されている。

下流は権現橋まで川幅を約2倍にする工事が行われており、その上流も同様に行う計画になっているが、計画どおり実施されると、現在の景観がまったく違ったものになると思われる。(相馬)

川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日13:30～
 年会費：1000円 詳細は下記世話人まで
 人間市 相馬 04-2965-1741
 狭山市 村手 04-2957-3425
 所沢市 小黒 04-2923-8946
 川越市 高木 0492-43-9828

= 流域情報 =

○ 第7回「川でつながる発表会」 2月13日

新河岸川流域川づくり連絡会主催の「川でつながる発表会」が荒川知水資料館アモアホールで開催された。流域内の小学生から市民の会まで7つの団体が、川や環境にまつわる学習・活動の成果を発表した。それぞれに知見を深め、世代を越えて交流する機会となった。

ホ ニ ュ ト ス



不老川礫間浄化施設跡地に立派な「転落防止柵」が取り付けられました。「河川維持修繕工事(防御策工その3)」施設本体部分はどうするのでしょうか? 請負金額 5,193,300円
(永井)

編集後記

このような時期ですが、相も変わらずの自身でお送りします。淡々と日常活動を続けることが肝心と腹を据えて。自然との、人とのつながりを考え、考え、土手の草花観察に行きます。
 つぶやき(地震列島にこんなにも沢山原発を作らせ続けた大元が問われないのは、なぜ?)
(H.T.)